

株式会社 情報システム研究所

「組織は人なり、社員満足を…」という言葉は、よく経営にたずさわる人が口にする言葉だが、現在のような時代では、「まず売上」というのがどうしても最初に出てくるようになり、やがて企業内に閉塞感が生まれてしまう。その現状を打破するためのコンピュータソフトが「元気がでるシステム」だ。どのように「元気がでる」のかを、開発した株式会社情報システム研究所に伺った。

悩みを抱える企業と共に

「売上は増えているのに利益が増えない」とか、「損益分岐点下がらない」という悩みを抱えている企業なら、この『元気がでるシステム』は力になれると確信しています。穏やかだが、力強く株式会社情報システム研究所の金澤闌朗所長は語った。

その理由としてこのシステムは机上のものではなく、また、システムエンジニアがつくったものでもない。実際のお客様の事例をモデルにシステム化したものである。

金澤さんはその時を振り返って語る。「当時そのお客様は売上が増えているのに利益に結びつけられない、その解決法としてコンピュータを導入されたのです。コンピュータを管理の道具に使うのではなく社員全員の情報ツールとして使うという狙いで取り組み、このシステムが本当に社員のヤル気・元気を創り上げるものになったと思います」

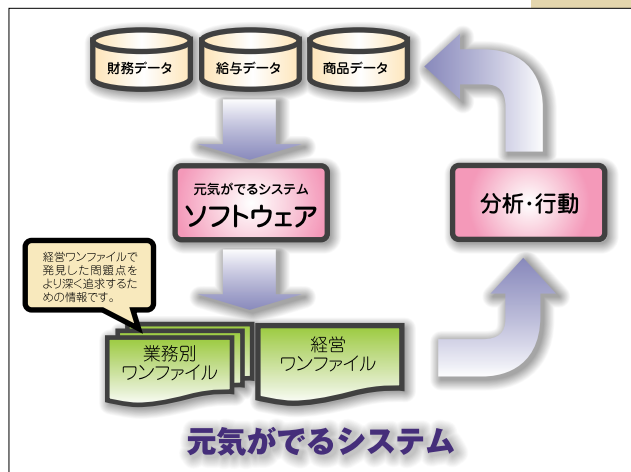
全従業員が経営参画

「元気がでるシステム」を簡単に説明すれば、財務や販売、人事など、とかく分散してしまいがちな各部門のデータを一元化し、組み合わせることにより問題が見えてくる。このデータをもとに自主的な現場の改善活動への取り組みが促進される。「元気がでるシステム」の優れた点は現場の人を重視し、その声を生かしながら作られてきたところだ。

「人を尊重し」と言いながら、実際には売上



所長の金澤闌朗さん。「ナレッジマネジメントを支援するためのシステムです。このシステムを普及したい思いで2000年4月に株式会社情報システム研究所を創設しました。『元気がでるシステム』の説明のため日本各地を飛び回る毎日という。



だけをもとめてしまいがちです。それでは社員には『使われている』という意識しか生まれません。ひとり一人が利益目標・意識をもってこのデータを見れるようになれば、各部署ならではの問題点も浮かび上がってくるでしょう。そうした問題点を提起・解決することで、自らが会社の活性化に貢献しているという考えが生まれてきます」

当初導入の企業は確実に活発化

事実このシステムを導入された企業は、現在、財務内容が改善されているだけでなく、社内の仕組みも整備され「元気」になっているという。金澤所長は「このソフトを締め付けや管理職のためだけと捉えると『イジメ』用のシステムとしか思えなくなりますが、お互いの信頼を築き上げるためのツールの一つであるということに気づいてほしいんです」と語ってくれた。

いわて新産業創造センター
インキュベートルーム
入居企業の紹介

◆インキュベートルームとは、企業成長を支援するための施設で、創業間もない企業等に低額で貸与するマリオス7階のオフィススペース。入居者に対しては総合的な支援を実施し



「勤定奉行」「給与奉行」「商蔵奉行」など、株式会社オービックビジネスコンサルタント発売のソフトを前提として、その情報に各部門で独自に管理している情報を組み合わせることで、全体を見渡せる「経営ワンファイル」を作成。さらに発見した問題点を掘り下げ追求する「業務別ワンファイル」も同様の操作性で、使いやすさも魅力。開発には各種コンサルタントも参加し、どんな企業でも利用することができる。



製品の特長や具体的内容を盛り込んだCD-ROM。パワーポイント、エクセル、ワードというビジネスソフトさえあれば見る事ができる。

株式会社情報システム研究所 / DATA
盛岡市盛岡駅西通2-9-1 マリオス7F
TEL 019-621-5272 FAX 019-621-5282
ホームページ <http://www.isop.ne.jp/isi/>
Eメールアドレス isi@isop.ne.jp